

● 地域提案型

平成18年度 採択内定案件

<b>I. 提案事業の概要</b>	
1. 国名	スリランカ
2. 事業名	キャンディ及びヌワラエリアにおける水質改善のためのモニタリング研修事業
3. 事業の背景と必要性	<p>スリランカ国における河川の汚濁は深刻な問題となっている。独自に実施した現地調査から、家庭排水、ごみやし尿の不法投棄（クリーク汚染）、未処理の工業廃水の放流（クリーク汚染）、農業廃水（クリーク汚染）、固形廃棄物最終処分場からの浸出水（地下水汚染）など様々な原因によるものと考えられる。汚濁された河川の水は、沐浴・洗濯・飲用水など住民の生活用水として使用されている。「JICA国別環境情報整備調査」報告書によると、年間12万人が下痢症状で入院し、年間120万人以上の人々が水由来の疾病に悩まされ、その解決が求められている。しかしながら、このような地方都市では、汚染の実態を把握するために必要な担当行政職員のマンパワーや技術が不足しており、その結果定期的なモニタリングが十分に行われていないことから、汚染源や疾病汚染物質の特定に至っていない。特に、今回の協力対象都市であるキャンディ・ヌワラエリア両市は、ともにスリランカ有数の観光地であり、円借款による観光開発支援事業の対象都市となっており、対スリランカ国別援助計画に掲げる「輸出・観光・環境立国」による外貨獲得を支援・実現していく上でも、外国人にとって魅力あるモデルとなるべき重点都市である。</p> <p>人の健康を脅かす水質汚濁は、観光都市発展の阻害要因であり、その解決へ向けての取組は喫緊の課題であると同時に長期的に見た同国の国益に適うものである。このようなことから、本事業は、様々な環境問題が表面化・深刻化する前に、環境管理の前提となるモニタリング体制の充実及び技術向上を図ることにより、同国の発展の基盤である観光産業を環境面から支援するものである。</p>
4. 事業の目的	<p>キャンディ市・ヌワラエリア市環境業務担当者が河川水質モニタリングの基礎技術を習得するとともに、環境管理政策を体系的に理解し、中央政府と連携しながら地域特性に合った効果的なモニタリングを継続的に実施できる体制を確保する。また、一般市民、大学、NGOなどから環境指導者が育成され、地域住民と行政担当者の協力・相互補完関係の橋渡し役を担っていく人材のネットワークを確立する。ひいては、両市の限られた人的・財政的資源を最大限有効活用することで、河川の汚染源特定及びその対策へのアプローチをスムーズなものとするを目標とする。</p>
5. 対象地域	スリランカ国キャンディ市・ヌワラエリア市
6. 受益者層	スリランカ国キャンディ市・ヌワラエリア市の行政担当者および地域住民
7. 活動及び期待される成果	<p>【成果】人材育成として、中央政府およびキャンディ市・ヌワラエリア市環境担当職員を北九州市に招聘し、水質モニタリング技術の向上と中央政府と連携体制作り、および環境管理分野の政策形成能力向上のための研修を行う。</p> <p>【活動】水質モニタリング能力向上のための本邦研修及び専門家派遣による現地指導</p>
8. 実施期間	平成19年度～平成20年度
9. 事業の実施体制	北九州国際技術協力協会が実施団体となり、現地側中央環境庁、キャンディ市、ヌワラエリア市の協働体制を構築の上、現地技術指導及び研修員受入を行う。
<b>II. 応募団体の概要</b>	
1. 団体名（提案自治体）	（財）北九州国際技術協力協会（福岡県北九州市）
2. 対象国との関係、協力実績	平成17年6月、平成18年3月にスリランカの環境問題に関する独自現地調査を実施し、同地域の環境現況を調査したほか、2006年7月には、JBICの「スリランカ国観光セクター開発事業」の一貫でヌワラエリア市での都市環境管理実態調査を行った。